

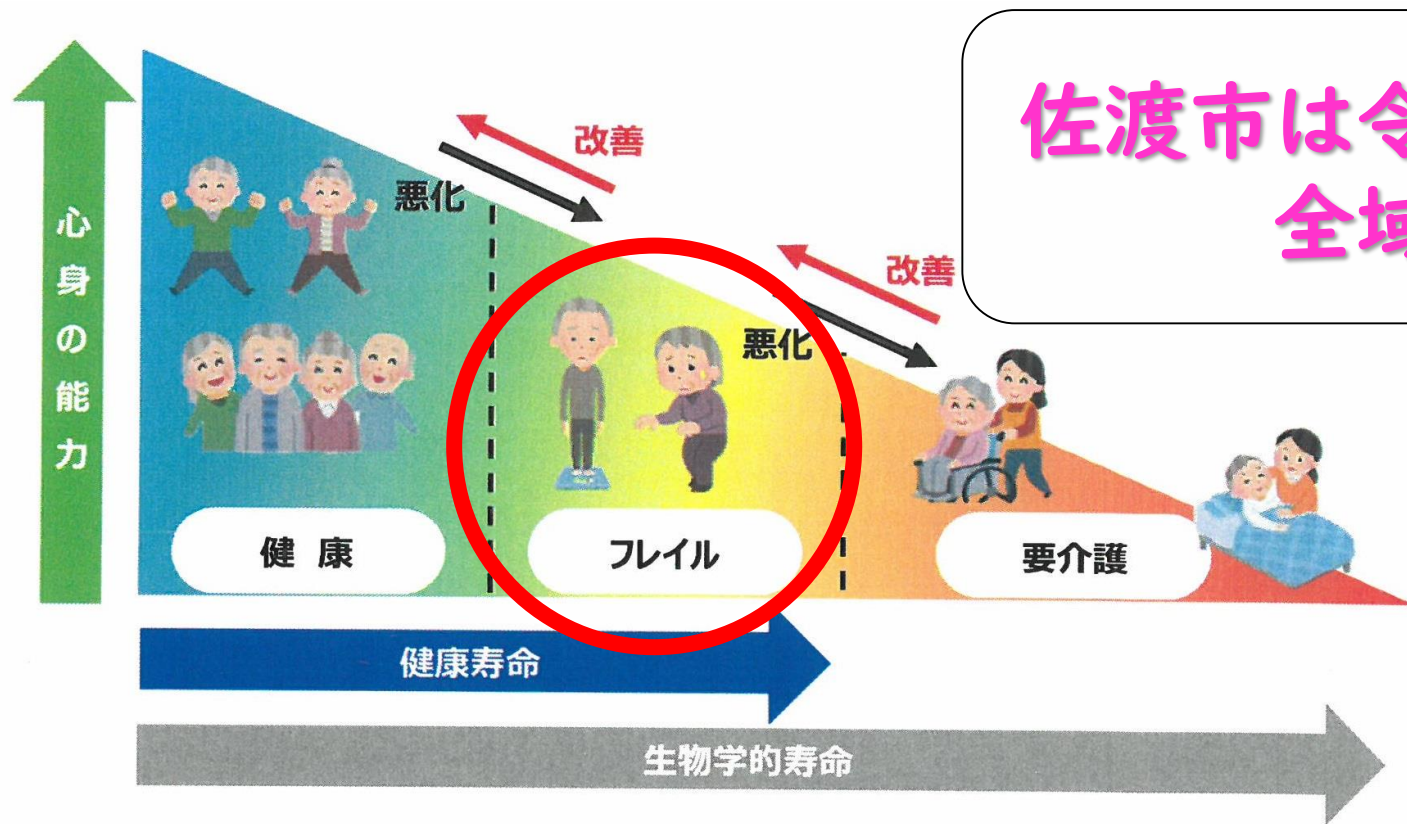
佐渡市高齢者の 保健事業と介護予防等の 一体的な実施について (令和5年度進捗状況)

※ 令和6年3月9日までの把握状況



令和6年3月15日
市民課 保険年金係

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施をなぜ行うのか？目指すべき方向性はどこなのか？



佐渡市は令和5年度から
全域実施！

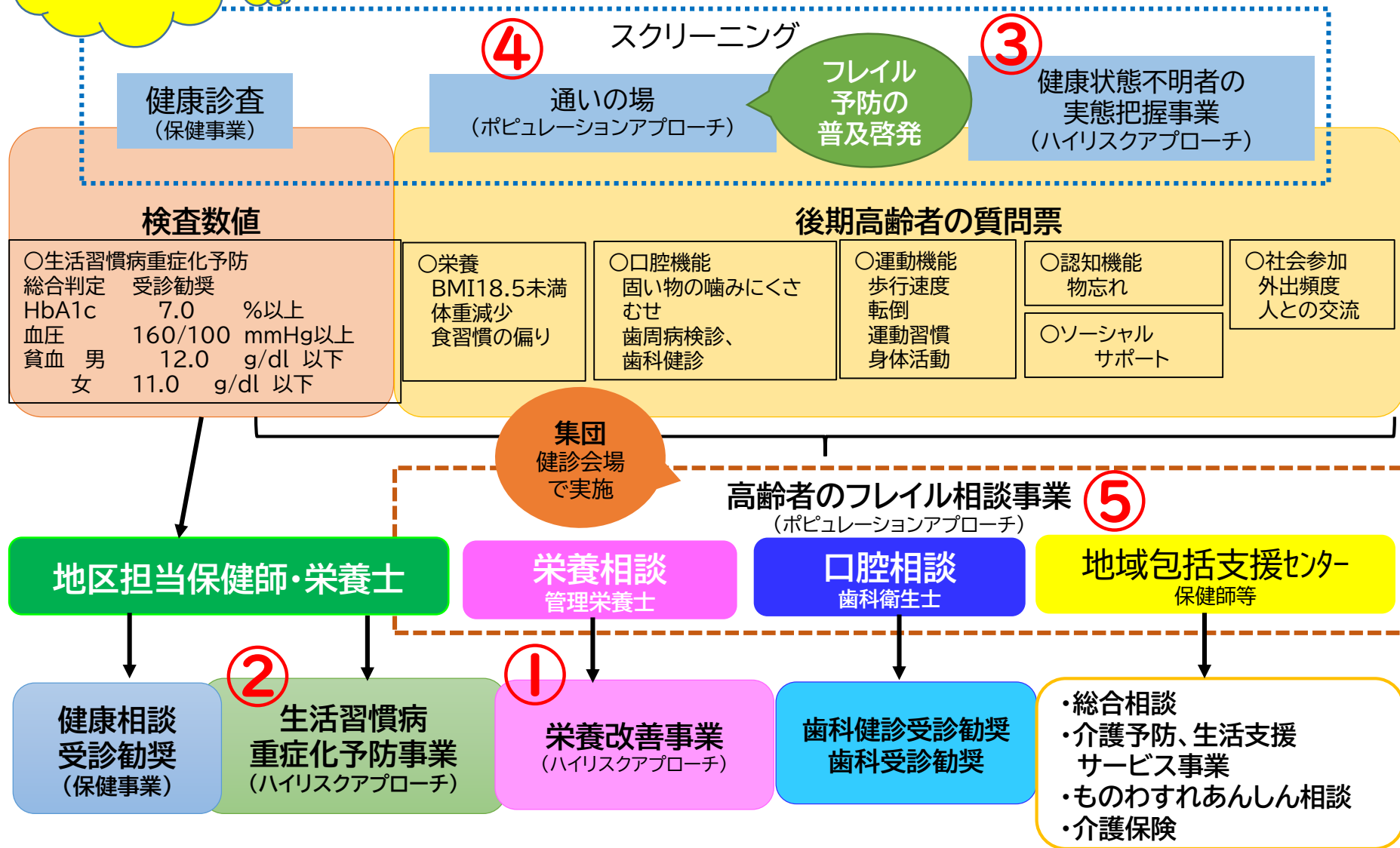


医療費、介護給付費削減のため？
市民の生活の質向上のため？
自分の将来のため？

健康寿命の延伸

今年度は
全域実施

令和5年度 佐渡市高齢者の保健事業と介護予防等の一体的実施 事業流れ



ハイリスクアプローチ（事業の概要）

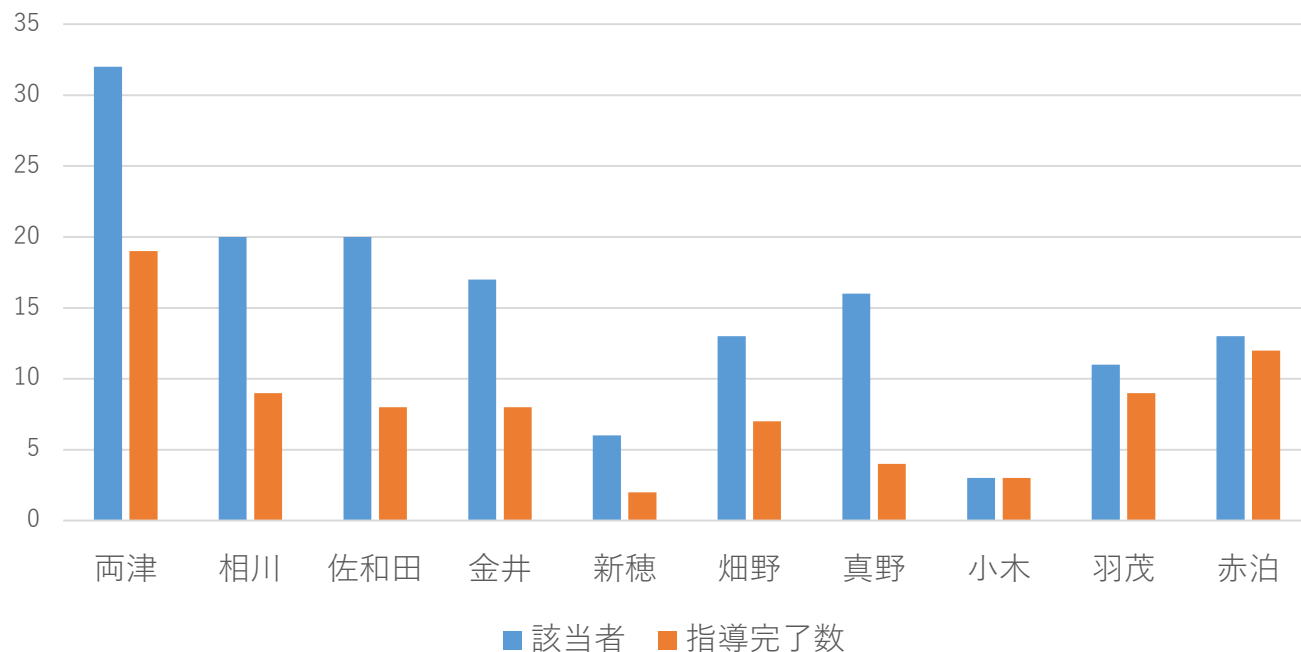
事業名	対象者抽出基準	支援実施者	実施体制・支援方法	支援期間
①栄養改善事業	・集団健診の結果、BMI18.5未満の方 ・その他、栄養指導が必要と思われる者（半年前に比べ、2～3kg以上の体重減少者など）	管理栄養士	①健診当日のフレイル相談 ②対象者抽出 ③初回支援（健診から約2か月後） ④継続支援（③から約2～3か月後） ⑤評価（④から約2～3か月後）	7～3月
②生活習慣病重症化予防事業	75～84歳の方で、集団健診の結果 1) 糖尿病（HbA1c7.0%以上） 2) 高血圧（160/100以上） 3) 貧血（男性：12g/dl以下 女性：12g/dl以下） 過去1年間内科未受療の方	保健師、 管理栄養士	①対象者抽出 ②初回支援（健診から約2か月後） ③受診状況の確認（初回支援の約3か月後） ④継続支援 （③確認後、訪問または電話での支援） ⑤受診状況の確認（②以降、約6か月後）	7～3月
③健康状態不明者の実態把握事業	KDBで抽出した健診・医療・介護未受診者で、介護サービス等も利用しておらず、健康状態が不明な者	保健師 （包括C、市）	①対象者抽出 ②高齢者の質問票を送付、返送 ③情報共有会議 ④個別支援（②で返送の無い方：訪問） （②で返送があった方：電話）	8～2月

ポピュレーションアプローチ（事業の概要）

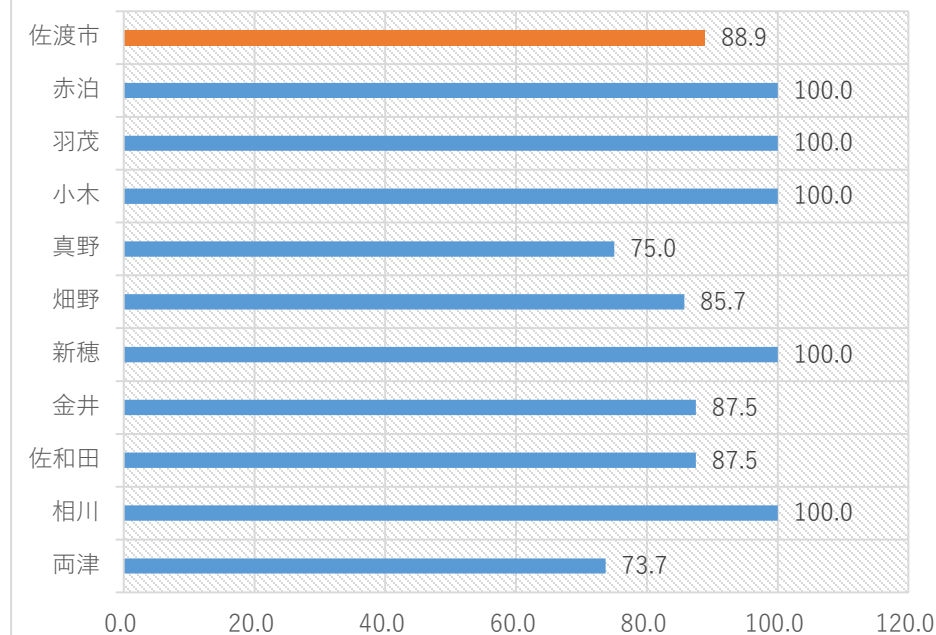
事業名	対象者抽出基準	支援実施者	実施体制・支援方法	支援期間
④フレイル予防普及啓発事業	・75歳以上の後期高齢者、65歳以上の前期高齢者 ・通いの場等に参加した地域住民	保健師、 管理栄養士	(1)フレイル予防の普及啓発 1)地区健康学習会 2)健康教育・健康相談 (2)後期高齢者の質問票の活用	6～3月
⑤フレイル相談事業	市の集団健診受診者	保健師、 管理栄養士、 歯科衛生士	①希望の聞き取り ②フレイル相談の実施 1)栄養:市の管理栄養士 2)包括:包括支援センター保健師 3)口腔:在宅歯科衛生士 ③情報共有 ④評価	8～3月

①栄養改善事業（R6.3月9日までの確認状況）

該当者と指導完了者（名）



体重が増加または維持した方（％）



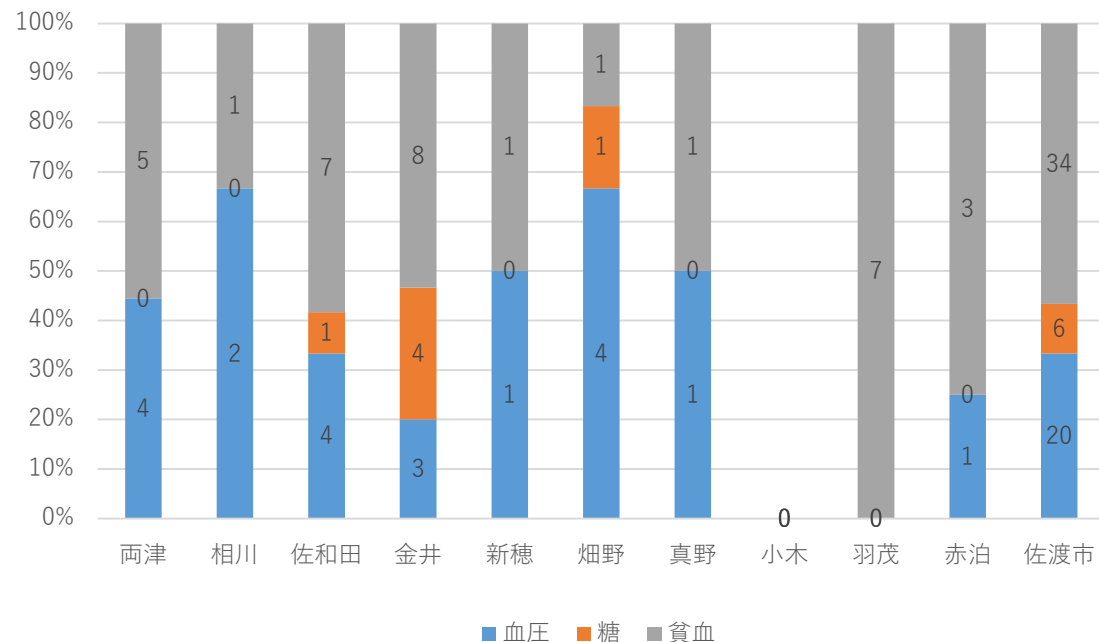
○該当者は151名、初回支援は116名、指導完了者は81名でした。（指導完了率69.8%。指導期間中に転出、入院等の方は、指導完了時の対象者数から除外しました）初回支援の連絡をしても、「忙くて時間が取れない」「自己管理できているので、指導の必要性を感じなかった」等の理由で拒否される方が36名おり、介入の難しさを感じました。

○対面での栄養指導により、たんぱく質摂取など食への意識を変えるきっかけになった方、体重増加や生活改善につながった事で表情が良くなった方など、指導効果が見えました。支援者側も市民から元気をもらえる機会になった。

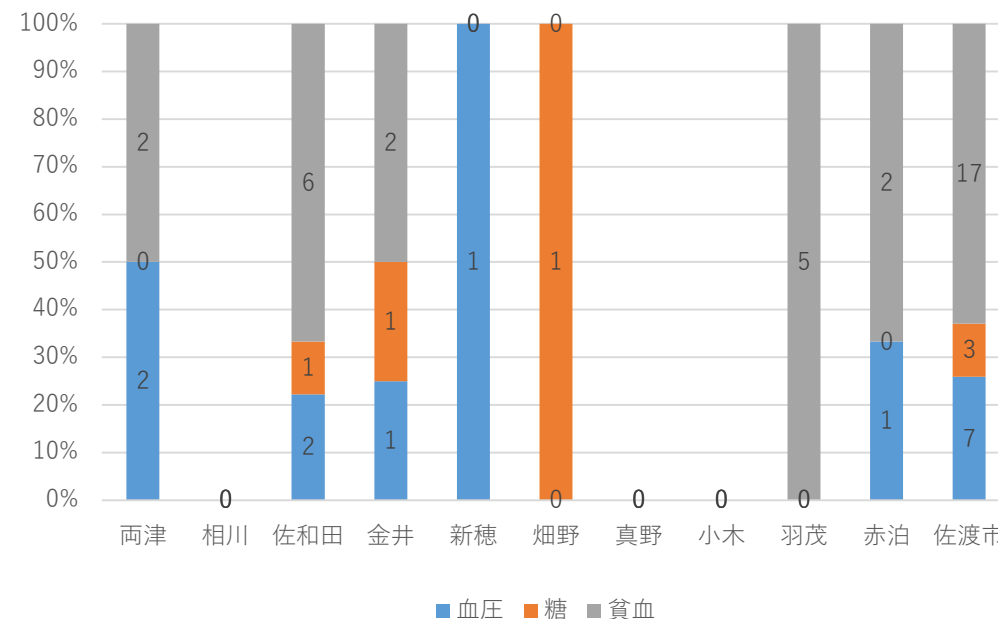
○全体で83.6%の方が、体重の維持または増加につながりました。（健診は夏、評価時期は冬の為、季節の影響が関係するか？）

②生活習慣病重症化予防事業（R6.3月9日までの確認状況）

該当者別内訳（名）



受診者別内訳(名)



○該当者は58名でした。【内訳】血圧20名、糖5名、貧血33名

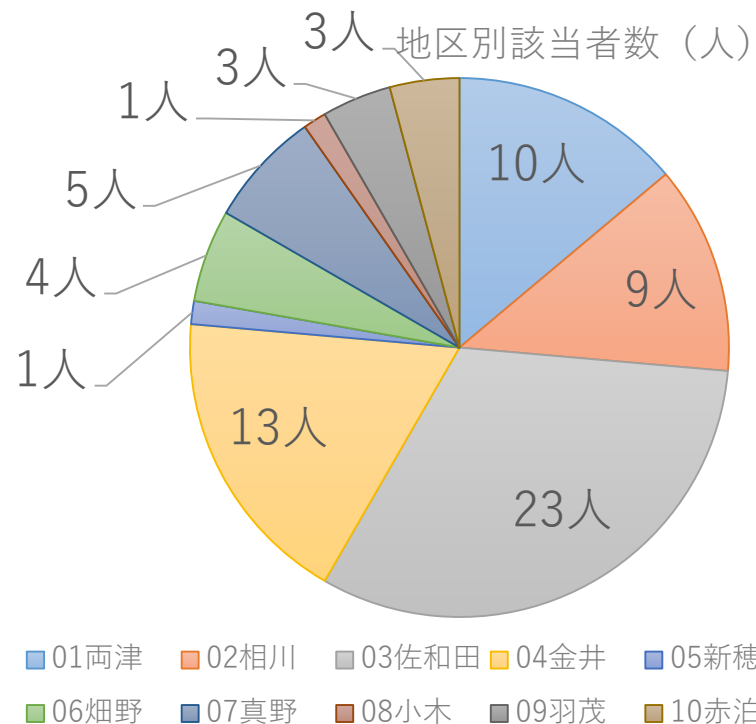
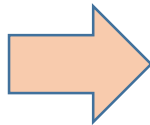
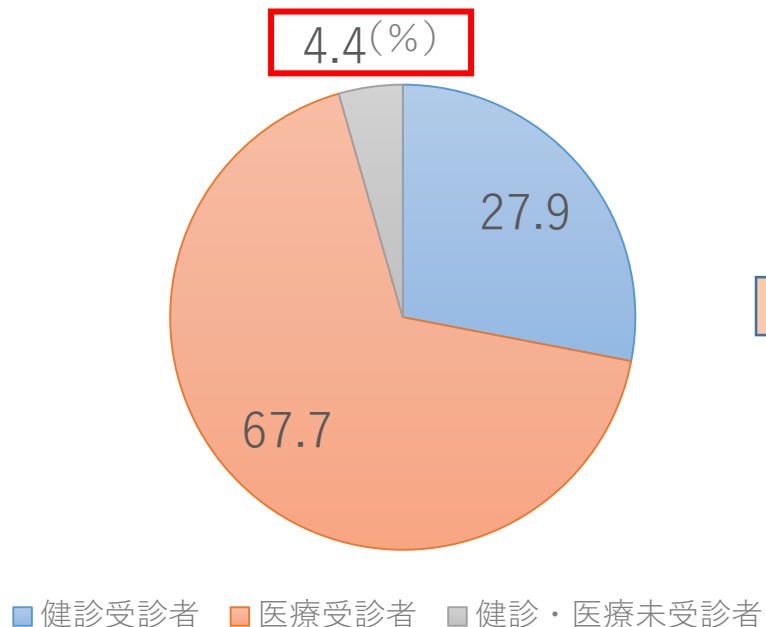
○医療機関を受診した方は29名で、医療機関受診率は50.9%でした。【内訳】血圧8名、糖3名、貧血18名。（指導途中に治療等で改善された方、死去された方もおり対象者数から除外しました。よって0名の地区があります）

○医療機関受診を拒む方の理由には、「以前指摘されたが受診するほどではないので行かない」「体調でも気にする事がない」「普段の食生活などで気をつけているので大丈夫」等の声が聞かれました。

○貧血に該当する方の中には、栄養改善事業の該当者もあり、管理栄養士が栄養指導にあたりました。

③健康状態不明者の実態把握事業

R 4 後期高齢者健診・医療受診状況



○令和4年～5年7月末までの間、健診・医療未受診者で、かつ介護予防事業や地域情報などが不明な方(114名)を抽出し、後期高齢者の質問票を送付しました。各地域での情報共有会議で質問票の返送があった方の状況を含め、72名に関わることに決定しました。(※上記地区別該当者グラフより)

○実態把握訪問では、「野菜作りや家族の関わりがある」「体調もなんともないので健診も病院にも行かない」等の声が聞かれました。

○しかし、転出、死亡、連絡先や行方不明などの方もいた事から、改めて健康状態不明になる前から地域や支援者間の情報共有、連携の必要性を感じました。

KDBシステムより健康状態不明者を抽出（8月上旬）

214人（抽出期間：R4.4～R5.7まで）

介護予防事業等参加者、介護予防実態把握事業終了者の確認（高齢福祉課）及び地域で把握している情報等の確認（各エリア）で絞り込み（8月中旬まで）

114人

健康状態不明者に後期高齢者の質問票を郵送（8月下旬）

38人

後期高齢者質問票の返送（9月中旬）

質問票
回答あり

質問票
回答なし

情報共有会議（各地区：9月中旬～10月前半）

情報共有会議で、72人に関わることで決定
包括センター：13人（訪問）
市（エリア）：59人（訪問9人、電話連絡50人）

33人

20人

総合相談、介護予防事業把握事業
（包括C、在宅介護支援C、プランチ）

電話確認（各エリア）

訪問・面談対応（包括Cまたは各エリア）

健康状態・生活状況の確認ができた

12人

サービス等への継続の必要性あり

15人

確認出来なかった

不在、不明、死去

7人

終了；通院服薬なし。
特に心配なし。

医療受診勧奨、包括支援センターに情報提供等。情報共有、地域の見守り、保健師継続

電話や訪問するが
繋がらず、会えず

周辺情報（親戚、近所など）から判明

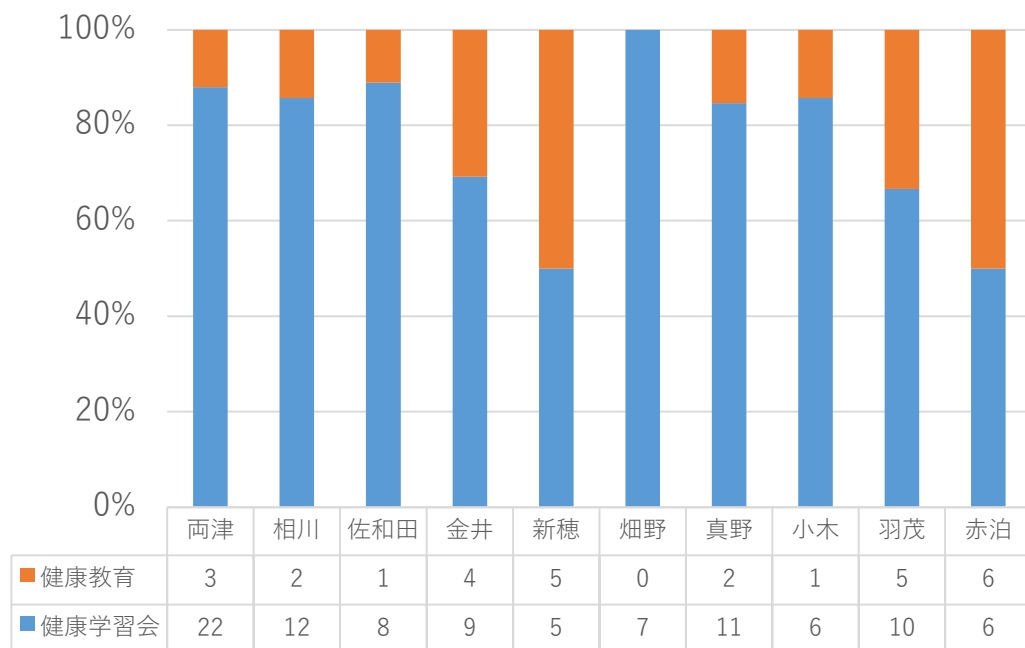
うち60人に関
わる、または情
報提供を得た

41人

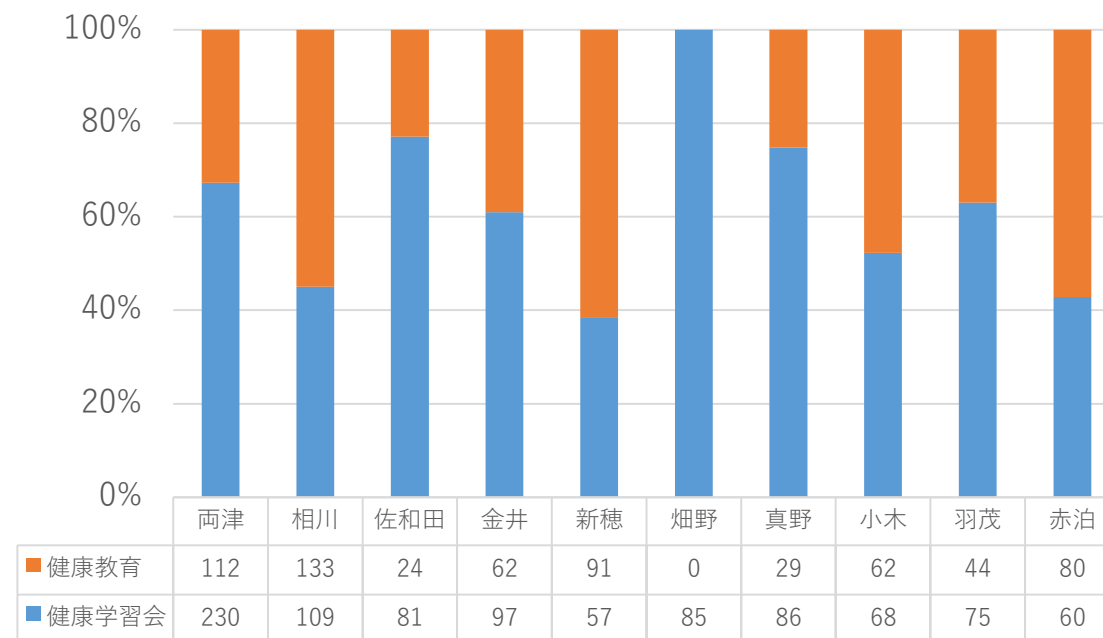
必要時、フォローアップ

④フレイル予防普及啓発事業（R6. 1月実施分まで）

健康教育（会場数）



健康教育（参加者数）



○地区健康学習会では、「お口のフレイル予防について」をテーマに、保健師、栄養士、歯科衛生士で実施しました。会場によっては、後期高齢者が多く、参加者の年齢層に合わせて伝え方や媒体も工夫しました。

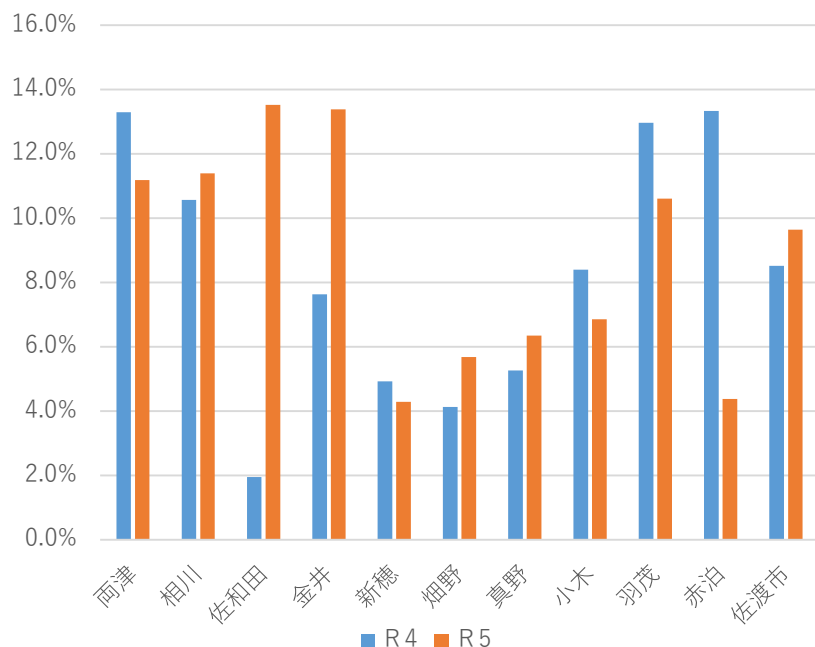
○フレイルについて理解できた方は、全体の81.2%でした。「フレイル」の言葉も耳馴染みになっているようです。

○1月に発生した地震の影響で、パッキング、地域のつながりについての関心が高くなりました。

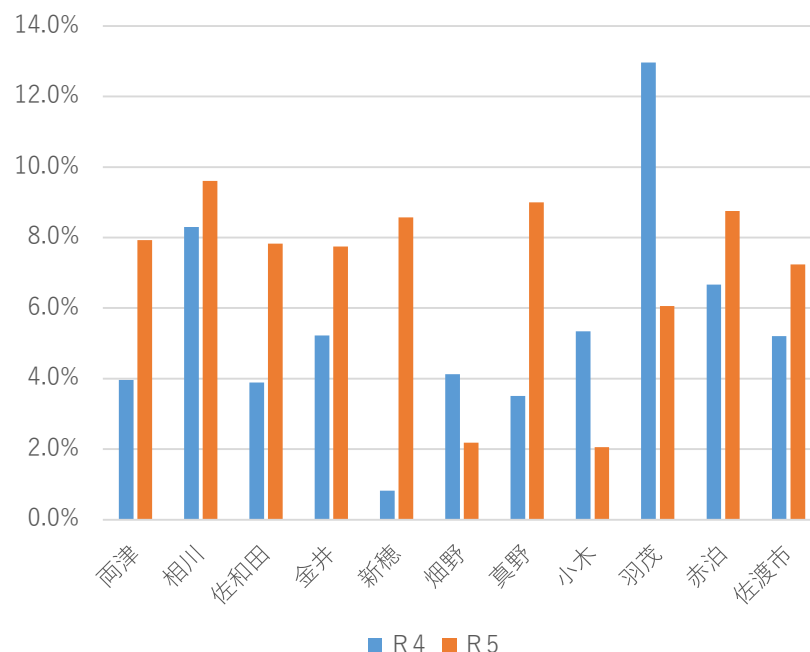
○その他の健康教育では、地域の茶の間やサロン、老人クラブ、敬老会、高齢者学級などで、フレイル予防の普及啓発を行いました。社会福祉協議会や公民館等と連携しています。

⑤フレイル相談事業

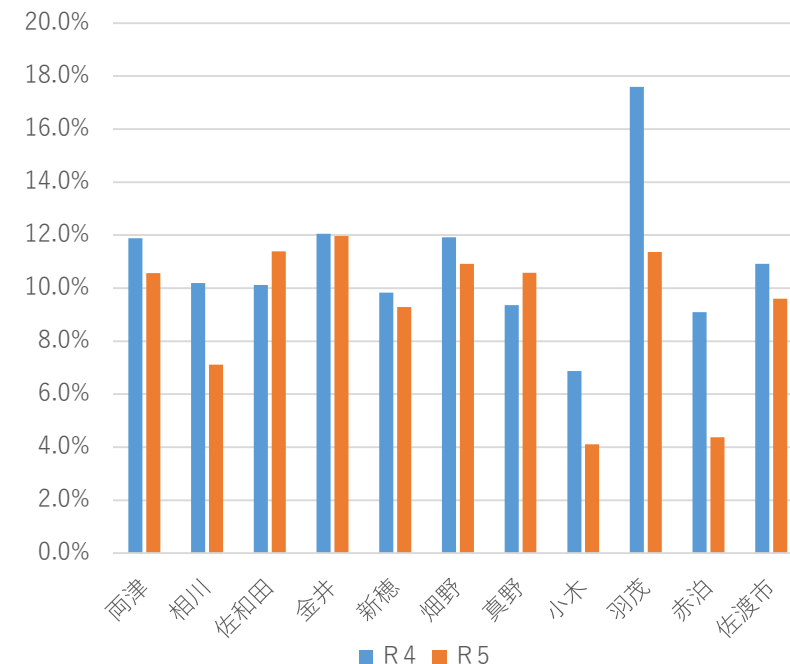
フレイル相談実施率_包括



フレイル相談実施率_栄養



フレイル相談実施率_口腔



○昨年度と同様、包括支援センター保健師など、市の管理栄養士、歯科衛生士でフレイル相談を対応しました。集団健診受診者数の増加に伴い、相談者数は増加しています。

【包括】対象者に介護予防事業等へのつながりや、家族の介護相談など、身近な相談窓口としての機能を担っていただきました。

【栄養】昨年度から該当になる方もいました。「①栄養改善事業」の該当者もあり、管理栄養士が栄養指導を実施しました。

【口腔】義歯の不具合、噛みづらさを感じている方、義歯の手入れが不十分な方が目立ちました。

保健事業と介護予防等の一体的実施（R6.3月9日までの確認状況）

	事業名	課題・改善を必要とする点	次年度に向けて
ハイリスクアプローチ	①栄養改善	○対象者の年齢制限を設けていなかった。 ○体重の増加、維持の目安を示していなかった。	○対象年齢を75～84歳までに限定する。 ○集団健診で体重が顕著に減少した方（1年間で3kg以下）にも注意する。 ○基本方針に、体重の増加（+1kg）、維持（±0.9kg）と明記する。
	②生活習慣病重症化予防	○医療や支援を拒む方の介入の難しさを感じる。	○傾聴の大切さや行動変容を促す研修、事例検討の実施。 ○高齢者に分かりやすいパンフレットの活用。
	③健康状態不明者の実態把握	○高齢者の質問票に電話番号欄が無く、宛所不明者がおり、連絡が取れなかった。 ○家族と同居している方も対象にあった。	○質問票に電話番号欄、氏名等を差し込み印刷できるよう様式を整える。 ○訪問、電話対応の優先順位のルール化。
ポピュレーションアプローチ	④フレイル予防普及啓発	○1会場あたりの参加者数が減っている。 ○新規参加者が増えない。 ○会場まで遠い。足が無い。 ○内容がマンネリ化してしまう。	○公民館事業、社会福祉協議会等との連携をはかり、健康教育の場や参加者を増やす方法を検討する。
	⑤フレイル相談	○歯科衛生士は全会場1人で対応。 ○相談者が来る時間帯にムラが生じる。	○歯科衛生士の確保。 ○臨機応変に対応できる市職員の配置を検討。

意見交換（フレイル予防普及啓発について）

【テーマ】

各グループ別に課題（テーマ）に基づき、検討する。

1G:「少」→参加者が少ない・固定化、男性参加者が少ない、
担い手が少ない

2G:「足」→会場に行くまでの足（手段）に困る、会場が遠い
会場に行くまでの体力が無い

3G:「場」→内容のマンネリ化、内容に困る

【流れ】

- ①課題を解決するために、効果的と考えられる取り組みは？
- ②他課、住民等と連携して取り組めることは？
（次年度に出来そうなこと。具体的に）
- ③発表

